

横浜市記者発表資料



公益財団法人
木原記念横浜生命科学振興財団

令和2年7月17日
経済局産業連携推進課
(公財)木原記念横浜生命科学振興財団



2020年度 LIP. 横浜トライアル助成金 交付対象事業(22事業)が決定

～中小・ベンチャー企業や感染症等の研究を支援します～

「LIP.横浜」から、中小・ベンチャー企業や大学、研究機関等による試作品開発など、新たな産学連携プロジェクトを創出するため、「LIP.横浜トライアル助成金」((公財)木原記念横浜生命科学振興財団運営(※))の募集を行いました。

この度、中小・ベンチャー企業が取り組む事業や、新型コロナウイルスなどの感染症の研究をはじめとした、大学や医療機関等が取り組む事業を支援するため、22事業(交付予定額 21,665千円)を交付対象事業として決定しました。今後、LIP.横浜の会員などとのマッチングや販路開拓により、中小・ベンチャー企業の支援を積極的に進め、イノベーション都市・横浜の実現につなげまいります。

(※)本事業は、(公財)木原記念横浜生命科学振興財団が横浜市経済局の補助金を受けて運営する事業です。

【交付対象事業】

感染症の研究に取り組む事業（2事業）

事業名	タンパク質結晶を用いたワクチン開発製造法の研究開発				
事業内容	迅速なワクチン開発ならびに検査キット供給を可能にする方法として、タンパク質結晶を用いたウイルス関連タンパク質の内包・保存法の開発を行う。				
申請者	国立大学法人東京工業大学 生命理工学院 安部 聰 助教	共同研究先	—	交付予定額	1,000千円
事業名	スフェロイドの作製効率を飛躍的に高める新規培地の開発及びこれを用いた血管炎症モデルの作製				
事業内容	創薬研究用スフェロイドの作製効率を高める培地を開発し、血管モデルスフェロイドを作製する。新型コロナウイルス治療に利用が検討されている抗炎症剤等の効果を検証する。				
申請者	公立大学法人横浜市立大学 生命ナノシステム科学研究所 小島 伸彦 准教授	共同研究先	—	交付予定額	1,000千円

中小・ベンチャー企業が取り組む事業（13事業）

事業名	再生医療応用のための新規細胞培養基材・試薬の開発				
事業内容	ヒトの細胞と親和性の高いクラグコラーゲンを用いた新たな細胞培養基材の試作を行い、細胞ごとの性能を評価する。皮膚や軟骨については早期の試作品の提供を目指す。				
申請者	株式会社海月研究所（鶴見区）	共同研究先	—	交付予定額	1,000千円
事業名	起立動作でみる自律神経機能評価のオンライン診療向けカウンセリング・リワーク支援システムの臨床評価に向けた開発				
事業内容	リストバンド型心電計を活用し、自律神経活動を日常的に評価することで、オンライン診療向けカウンセリング・リワークを支援するシステムの臨床評価に向けた開発を行う。				
申請者	株式会社クロスウェル（西区）	共同研究先	—	交付予定額	1,000千円

次頁あり

事業名	難治性乳がんに対する新規放射線療法改良法の開発				
事業内容	難治性乳がんの最新の放射線療法に独自技術を組み合わせることで、奏効率の向上と副作用の軽減を達成できるような放射線療法の改良についての基礎研究を行う。				
申請者	ジェイファーマ株式会社（鶴見区）	共同研究先	大阪大学	交付予定額	1,000千円
事業名	タンパク質間相互作用を解析するスクリーニング技術を用いた創薬支援				
事業内容	創薬標的となるタンパク質間相互作用について、弱いタンパク質間相互作用であっても検出を可能にする酵素の最適化を検討し、相互作用スクリーニングによる創薬支援を目指す。				
申請者	株式会社セルフリーサイエンス（鶴見区）	共同研究先	静岡県立大学	交付予定額	1,000千円
事業名	外反母趾等足部疼痛による女性の行動制限や運動制限の原因としての中足骨の長さの不整列に応じて体重の伝導路を確保した場合の疼痛の変化についてのデータを収集し標準化を試みる事業				
事業内容	女性がハイヒールを履けなくなったり、運動能力が低下したりする足部の痛みを容易に軽減させる装具を開発する。				
申請者	ダンシングファン株式会社（青葉区）	共同研究先	—	交付予定額	1,000千円
事業名	微細藻類の拡大培養実用化試験およびその濃縮物の分析・研究				
事業内容	成分等に関する研究があまり行われていない微細藻類について、微細藻類株や研究権を取得し、拡大培養についての条件や含有成分、安全性、効能等について検証を行う。				
申請者	バイオジエニック株式会社（鶴見区）	共同研究先	国立遺伝学研究所	交付予定額	1,000千円
事業名	有効成分高封入りリポソーム製剤の開発				
事業内容	従来のリポソームよりも有効成分を高濃度に封入した、消化管液でのマスキング効果の高い、より効果的な免疫力向上リポソームサブリメントの開発を行う。				
申請者	株式会社バイオメッドコア（鶴見区）	共同研究先	東海大学	交付予定額	1,000千円
事業名	非ラメラ液晶を用いた DDS に関する研究				
事業内容	医薬品開発に必要不可欠な、薬を患部に届けて効果を持続させるドラッグデリバリーシステムの新技術を創出するため、開発した新規化合物の安全性や有効性の評価試験を行う。				
申請者	株式会社ファルネックス（緑区）	共同研究先	城西大学	交付予定額	1,000千円
事業名	高齢化社会の健康増進に寄与する、抗酸化、抗糖化機能を有し料理が美味しいなる混合スパイスの試作開発				
事業内容	栄養バランスに優れたナッツ類と混合させるスパイスの素材と配合比率を選定し、官能評価とともに抗酸化作用を評価し、これを混合スパイスの試作開発に反映する。				
申請者	株式会社ラトリエ1959（中区）	共同研究先	慶應義塾大学	交付予定額	1,000千円
事業名	マインドヘルス計測システムによるメンタルヘルスと業務リスクとの相関分析				
事業内容	声だけで心の状態を可視化する「マインドヘルス計測システム」を用いて、メンタルヘルスの不調及び関連リスクを早期に予測するモデル開発に向けたデータの収集及び分析を行う。				
申請者	リスク計測テクノロジーズ株式会社（中区）	共同研究先	—	交付予定額	770千円
事業名	女性の髪のボリュームへの体組成の変動の影響の検証				
事業内容	女性の髪トラブル対策を支援するプラットフォームを構築し、自分にあったトラブル対策を実践できる環境を提供するため、体組成と髪のボリューム変動の関連性を検証する。				
申請者	株式会社Aventino（港北区）	共同研究先	国立成育医療研究センター	交付予定額	991千円

事業名	高齢者におけるフレイル検知エンジンの開発				
事業内容	オーラルフレイルを含めた高齢者フレイルを音声解析、運動課題で可視化し、早期発見、介入に繋がる音声解析エンジンの開発を目指す。高齢者音声、健康データを集め、比較検証を行う。				
申請者	PST 株式会社（中区）	共同研究先	—	交付予定額	1,000 千円
事業名	IoT バイタル見守りシステムの開発				
事業内容	生体の状態異変を早期察知できる兆候検知型の見守りシステムを試作開発し、アルゴリズムの開発、非侵襲・非拘束でデータ取得装置および IoT 通信システムの構築を行う。				
申請者	株式会社 TAOS 研究所（港北区）	共同研究先	電気通信大学	交付予定額	1,000 千円
大学や医療機関等が取り組む事業（7事業）					
事業名	ハイスループット薬剤併用効果スクリーニングシステムの構築				
事業内容	小児がんを対象に、併用化学療法を含む薬物療法の開発を短期間で効率的に進めるための基礎研究システムを構築し、基礎研究データの解析に要する時間を短縮するプログラム開発を行う。				
申請者	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター 血液・腫瘍科 後藤 裕明 部長	共同研究先	—	交付予定額	994 千円
事業名	細胞内 Mg イオン動態可視化による神経機能賦活メカニズムの解明				
事業内容	細胞生物学的、分子生物学的な作用機序が不明な Mg イオンが神経機能へ果たす役割を明確にし、神経細胞の健康を維持するメカニズムを明らかにする。				
申請者	慶應義塾大学 理工学部 生命情報学科 岡 浩太郎 教授	共同研究先	—	交付予定額	1,000 千円
事業名	細胞膜透過性人工タンパク質ナノ粒子の開発				
事業内容	ペプチドや核酸からなる中分子医薬を封入し、疾患組織や細胞内に効率よく送達できる新規の膜透過性人工タンパク質ナノ粒子の確立に向けたコンセプト検証を行う。				
申請者	慶應義塾大学 理工学部 生命情報学科 土居 信英 教授	共同研究先	—	交付予定額	1,000 千円
事業名	次世代の病原体および臨床検体輸送装置の開発				
事業内容	臨床現場の治療および感染症サーベイランスに貢献するため、医療従事者が病原体に晒されるリスクを下げ、検査による偽陰性の確率を劇的に下げる次世代の輸送装置の開発を行う。				
申請者	慶應義塾大学 理工学部 生命情報学科 松原 輝彦 准教授	共同研究先	—	交付予定額	1,000 千円
事業名	「健康スポーツ活動」をサポートする『カラダコンディショニングアプリ（仮称）』の開発				
事業内容	スポーツにおけるケガ予防やパフォーマンス向上のため、コンディションをセルフチェックし、チーム単位で管理できるアプリを開発し、大学の運動部で実証を行う。				
申請者	公益財団法人 横浜市スポーツ協会 (横浜市スポーツ医科学センター・リハビリテーション科)	共同研究先	桐蔭横浜大学	交付予定額	909 千円
事業名	Mobile motion visualizer 鑑(Akira)を用いた動作解析による運動器疾患の遠隔診断法の開発				
事業内容	運動器疾患の遠隔診断用システム開発のため、運動器疾患患者を対象に関節可動域測定装置を用いた運動器疾患特有の異常運動を診断できる運動機能評価ソフトウェアの試作開発を行う。				
申請者	公立大学法人横浜市立大学 整形外科 崔 賢民 講師	共同研究先	(株)システムフレンド	交付予定額	1,000 千円

事業名	抗がん剤の開発を目指したエピゲノム創薬によるリード化合物の探索と改良				
事業内容	新規の創薬標的となるエピジェネティクス (DNA塩基配列変化を伴わない遺伝子発現制御) 関連タンパク質に対するリード化合物を探索・改良し、新規抗がん剤開発を目指す。				
申請者	公立大学法人横浜市立大学大学院 生命医科学研究科 小沼 剛 助教	共同研究先	—	交付予定額	1,000 千円

※ 事業名は、申請書の内容に基づいて掲載しています。共同研究先は見込みも含みます。また、正式名称は一部省略しています。

※ カテゴリごとの掲載順については、申請者名の五十音順としています。

LIP. 横浜トライアル助成金の概要

「LIP. 横浜トライアル助成金」は、経済の活性化や高齢社会の課題解決、市民の健康増進につながるライフイノベーションの推進を目的とし、革新的な医薬品・医療機器等の実用化に向けて、企業と大学・研究機関等により実施される産学連携事業の創出及び推進に向けた研究開発事業を支援するものです。

令和2年4月から5月にかけて申請の募集を行い、34件の応募がありました。有識者による審査を経て対象事業を決定し、助成金の交付決定を行いました。各事業はすでに研究開発がスタートしています。

イノベーション都市・横浜の取組



「イノベーション都市・横浜」の実現

横浜市は、2019年1月に、研究者・技術者、起業家、学生などの人材が、組織を超えて交流し、新たなイノベーションを横浜から創出していく、「イノベーション都市・横浜」を宣言しました。「ヨコハマ・クロスオーバー(YOXO)」を旗印として、みなとみらい21地区の研究開発拠点や、関内地区のベンチャー企業など、市内各地で

イノベーション人材の交流を広げ、産学官で新事業の創出・育成に取り組んでいます。

また、「I・TOP 横浜」と「LIP.横浜」の2つのオープンイノベーションを推進するプラットフォームを相互に連携させることで、市内企業のIoT及びライフイノベーションの取組を促します。

横浜ライフイノベーションプラットフォーム (LIP. 横浜)

LIP.横浜は、横浜から健康・医療分野※のイノベーションを持続的に創出していくことを目指し、産官学が連携して取り組むためのプラットフォームです。

このプラットフォームでは、企業・大学・研究機関のネットワークから革新的なプロジェクトを生み出すとともに、中小・ベンチャー企業などに対する製品化に向けた支援を行い、新技術・新製品の開発を促進していきます。

※創薬・医療機器開発、診断技術開発、予防医療、再生医療、介護、福祉、健康サービスなど

「LIP.YOKOHAMA BIBLIO」

みなとみらいの健康・医療関連ベンチャー支援拠点

「LIP.YOKOHAMA BIBLIO (ビブリオ)」では、医学・薬学に関連する文献の閲覧、



創薬や事業戦略の専門家相談、イベント・セミナーを開催しています。研究開発から起業、国内外での事業展開まで、健康・医療分野の研究開発やビジネスに関わる皆様を支援しています。

お問合せ先

(「LIP.横浜」に関すること) 経済局 産業連携推進課長 近藤 陽介 TEL: 045-671-2574
(助成事業に関すること) 公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団事務局長 菅原 真一郎 TEL: 045-502-4810

※本件は、経済記者クラブにも同時発表しています。